

おおだて新報

ODATESHIMPO

2014
平成26年

1月26日 日曜日 (先勝)

きょうの天気

大館 午前 午後
北秋田 午前 午後

各ブースで児童生徒がバイヤーらに売り込みを図った



大館市で県主催キャリア甲子園

県北11校が実践発表

企業との商談会「開く」地元4校も活動アピール

県主催のあきた協働フェスタ「県北キャリア甲子園」来て！見て！応援して！未来の活動大商談会」は25日、大館市有浦1丁目のプラザ杉の子で開かれた。食に関するキャリア教育を実践している県北地区の11校が集まり、各校の取り組みをプレゼンテーションしたほか、参加した県内企業と学校による商談会も開かれ、子どもたちの「ビジネスアイデア」の実現をバックアップした。

食をテーマに取り組みを行っている県北の11校が活動成果を披露し、それを企業やNPO、市民団体、行政などが応援する仕組みづくりを発展させることを目的に開催。県北地区では昨

年に続き2回目、実施主体は県北NPO支援センター。フェスタには、地域ぐるみでヒマワリ栽培などに取り組む釈迦内小のほか、山瀬小、成章小、大館高の4校が大館市から

参加。他に能代市から浅内小、能代東中、二ツ井中、能代松陽高、鹿角市から十和田小、十和田中、十和田高が参加し、大館国際高インターアクト部の生徒もイベント運営のボランティアとして

協力した。プレゼンテーションでは、各校が農産物の栽培や商品開発、販売などの取り組みを紹介。成章小は、地域住民から休耕田を借りてエタマメを栽培する「成章かがやきプロジェクト」に取り組み、収穫、加工したエタマメを使って児童がプリンやクラッカー、クッキーなどの商品を開発したことを伝えた。

また、会場には各校のブースも設置。県内の企業やNPOなど45社・団体が参加し、児童生徒の商品の説明に真剣な表情で聞き入っていたほか、

ジャガイモと米粉を使った巻物型の蒸し菓子「かまぶく」や、家庭クラブで考案したきりたんぽとグラタンを合わせた

料理「グラたんぼ」をPRした大館高の佐藤陽南さん(2年)は「企業の人たちに興味を示してもらえた」と満足げ。学校で作ったお米「山瀬つ子米」の魅力を売り込んだ山瀬小の松田翔大君(5年)は「山田地区の人たちと一緒に一生懸命育ててきた。秋田の米で作ったきりたんぽのおいしさをもっとたくさんの人に伝えたい」と張り切っていた。



このほか、食育をテーマに全国農業協同組合連合会県支部営農支援課の泉牧子さんが講演した。

食をテーマにした各校のキャリア教育の内容を伝えたプレゼンテーション